

SecureAge (セキュアエイジ)、日本のサイバーセキュリティ市場に本格参入

政府や企業の脆弱性を独自のデータ暗号化技術で保護 ～ 日本法人をグローバル最高執行責任者(COO)ジェリー・レイが統括 ～

2021年3月11日 - 2003年の創業以来、過去18年間データ侵害ゼロの実績を誇る急成長中のサイバーセキュリティ企業、SecureAge Technology Pte Ltd(本社:シンガポール、創業者兼CEO: Teow Hin Ngair 博士、以下 SecureAge)は本日、日本市場に本格参入することを発表します。日本法人の SecureAge Technology 株式会社(東京都港区虎ノ門 1-16-6 虎ノ門 RAPO-TO ビル、以下セキュアエイジ)は、SecureAge のグローバル最高執行責任者(COO)であるジェリー・レイが統括します。

日本市場への本格参入に際し、SecureAge の創業者兼 CEO の Teow Hin Ngair 博士は、「シンプルで透明性があり、侵入されることのないサイバーセキュリティソリューションを提供するというビジョンのもと、私は 2003 年に SecureAge を設立しました。サイバーセキュリティの基盤は、プロアクティブなデータ保護であり、誰もが同じレベルのセキュリティと信頼性にアクセスできるようにすべきだと私は考えています。当社の公開鍵暗号基盤(PKI)ベースの暗号化ソリューションは、セキュリティをデータの本質的構成要素としているため、仮にデータが盗まれてもそれは何の役にも立ちません」とコメントしています。SecureAge は、シンガポールの政府や軍、その他アジア太平洋地域のお客様との間で、18 年間にわたってデータ侵害やマルウェア攻撃をゼロにしてきた実績があります。

SecureAge のソリューションは、使いやすさとセキュリティが共存できる環境を無条件で実現します。データセキュリティは 100% か 0% のいずれかであり、SecureAge のアプローチは、100% のギャップのない保護を提供できるように設計されています。

- **格納中、操作中、伝送中のデータ** - 当社の PKI ベースの非対称暗号化技術は、ユーザの操作や認識すら必要とせず、あらゆる種類のファイルを保護します。
- **マルウェア攻撃からのエンドポイント保護** - 当社のエンドポイント保護プラットフォームは、当社の AI エンジンを使用して未知の脅威を検出するとともに、予測の限界を認識する「ブロックファースト」アプローチを採用しています。(つまり、誰が、何の目的で、どのデータにアクセスしているのか)

SecureAge Technology は 2017 年に日本法人を設立し、日本のお客様をサポートしています。しかし、新型コロナウイルスが引き起こしたパンデミックは、世界がリモートワークと加速するデジタルトランスフォーメーションの「ニューノーマル」を受け入れようとする競争の中で、日本におけるサイバーセキュリティの課題を浮き彫りにしました。SecureAge は、日本での 5 年間の成功を踏まえ、日本市場に本格的に参入することで日本におけるサイバーセキュリティの課題解決に貢献できると考えています。

グローバル最高執行責任者(COO)でセキュアエイジも統括するジェリー・レイは、「日本が柔軟な働き方に対応するための変化に向けて動き出している中、私たちは、組織が新しい就労環境を安全に運用できるようなソリューションを提供しています。従業員にサイバーセキュリティの専門家になることを強いることなく、セキュリティとユーザビリティを両立させることができると信じています。従業員は、本来の仕事に集中し、外部からの侵入者や悪意のある内部者からお客様のデータを保護する作業を私たちに任せることができます」とコメントしています。

今後の展望として、SecureAge は、日本がアジアで最もサイバーセキュリティの分野で大きな飛躍を遂げるための受容性と準備ができていてる国であると考えています。セキュアエイジは、日本国内での販売パートナーネットワークを拡大するとともに、市場固有のニーズをより深く理解し、厳選されたパートナーとの緊密な交流、グローバルなベストプラクティスに基づく継続的なイノベーションを通じて、日本市場向けの独自のソリューションを開発して参ります。

SecureAge Technology について

SecureAge Technology は、セキュリティと利便性の共存を実現したことで成長を遂げているデータセキュリティ企業です。シンガポールに本拠を置く SecureAge は、世界で最も高度で絶え間ないサイバー脅威から、顧客である政府機関や研究機関、先進的な企業のデータを保護しています。SecureAge と他社との違いは、データセントリックかつ直感的なセキュリティソリューションで定評を築いてきたことです。私たちはデータが格納中 (data at rest) の時だけでなく、操作中 (data in use) や伝送中 (data in transit) も保護するために必要なテクノロジーを開発してきました。これは、「ユーザがデータを保護するためにサイバーセキュリティの専門家になる必要はない」という信念を持ち続けることで実現しました。そのために、暗号化は不可欠であり、かつ意図せず、直感的でなければなりません。最も脆弱な状態にあるデータを保護するには、セキュリティはファイルレベルで実行され、かつバックグラウンドで暗黙的に動作し、各々の共同作業をサポートしなければなりません。それによって、ユーザは本来の業務に集中することができます。SecureAge のユーザは、すべてのファイル、すべての場所、すべての時間において 100% のファイルレベルのセキュリティを享受することができます。詳細については、www.secureage.com/ja にアクセスし、[LinkedIn](#) および [Twitter](#) でフォローしてください。